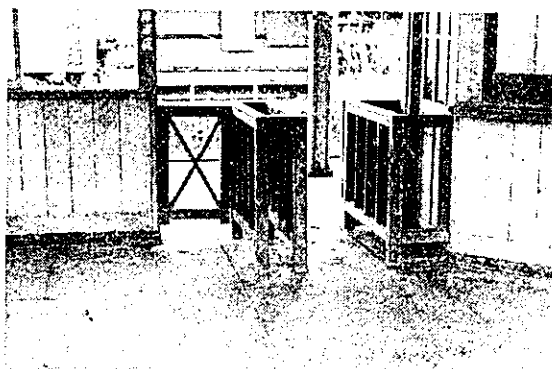


第17章 海陸交通の沿革



赤 岡 駅



いまはなき土電赤岡駅改札口

大正十三年（一九二四）十一月になって高知・須崎間の鉄道が開通した。  
その翌年には高知鉄道株式会社によって、後免・手結間の線路が宗成し、昭和五年には安芸まで延長された。

この線路は、はじめ汽車が走っていたが、のち土佐電気鉄道会社の手に移って、電車が走るようになった。

昭和十年（一九三五）九月一日、国鉄土讃線高知・高松間が全通し、高知県もやっと陸の孤島から解放されることになった。

後免・手結間の線路開通と前後して物部川に橋がかかり、その頃には赤岡横町の石段道も坂道にならされて、自動車網の発